



AAFC	第1回オーディオクリニック 「いい音をいつまでも」	2013/05/19
分科会資料		検査担当 鳥居 康信
		記録 脇田 隆夫

「いい音をいつまでも」を標榜してオーディオクリニックがスタートした。

診断の主治医は鳥居康信が担当。

会員所有の真空管アンプを各種検査機の使用により保守とメンテナンスを行う試みである。

先ず諸特性の調査を行い、長期使用による部品の劣化チェックを行うものである。

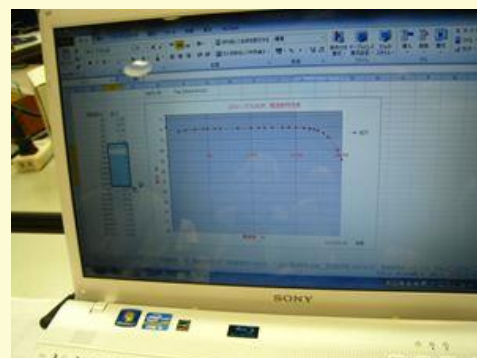
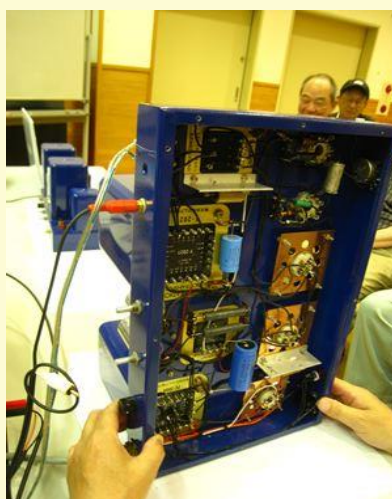
対象は脇田会員所有の300BPPモノ2台。マルチチャンネルシステムの中域JBL375+蜂の巣に使用。

17年前に友人に依頼して製作してもらったトランス結合のもの。

先ず真空管ソケットの清掃。ついで各種電圧測定・・特に問題なし。出力電圧測定・・特に問題なし。残留ノイズ特に問題なし。ここまでは良いのだが周波数特性・歪特性で20KHzに4db以上の大きなピークがある。個人が設計したウェスタンアンプ特有の音作りとの意見もあるが100KΩの抵抗を出力管のグリッドにかませるとほぼ無視出来るまでに落ち着く。出力管のドライブトランス2次側の負荷がグリッドしか繋がっていないのは高域での動作が不安定だ。

あと、数カ所回路上の問題点があり、技術に詳しい面々が揃って侃々諤々。入院して再度点検することとなった。本機は長期使用による劣化は認められず、むしろ設計上の問題点が多数指摘された。

ついで2A3Sのステレオ。これはマルチアンプの高域JBL2405に使用。ヒノオーディオのキットを18年前に所有者が組んだもの。



これは各種測定の結果、特に問題点見当たらず、入院の必要なし。そのまま持ち帰る事となった。

3時間たっぷりの時間をかけ、強力なる技術陣のサポートを得て初めての試みは熱っぽく終了。アンプ提供者はハラハラドキドキ、胃カメラあるいは脳ドック受診をするが心境でした・・

以上

[目次へ戻る](#)